

東日本大震災に係る被災地への養護教諭等派遣の成果について

保健体育課

1 趣 旨

東日本大震災により甚大な被害を受けた被災地の学校に対し、養護教諭等を派遣し、専門性を生かした人的支援により早期の学校再開に向けた支援を行う。

2 派 遣 先

宮城県石巻市内の被災した小・中学校

3 派遣実績

- (1) 3月24日(木)～26日(土)に宮城県石巻市に先遣隊を派遣、現地の状況把握及び宮城県教委と今後の支援のあり方について協議(県立学校養護教諭他 計4名)
- (2) 4月7日(木)～5月31日(火)の約2ヶ月間、3泊4日を1班として養護教諭2名・後方支援2名、合計11回派遣(派遣人数は養護教諭24名他 計47名)
- (3) 派遣日数は40日、派遣校9校、支援学校数延べ41校

4 主な支援内容(活動)

- (1) 保健室の機能回復(泥寄せ・清掃等の衛生管理、薬品の整理等)
- (2) 環境整備(保健室や校舎内の掲示物の作成)
- (3) 健康診断の手伝い(身体測定、視力検査、聴力検査)
- (4) 養護教諭の心のケア(話を聴く、辛さを受け止める)
- (5) 児童生徒のケア(相談活動、怪我や病気の処置等)

5 成 果

- (1) 迅速に派遣を開始したため、より学校のニーズに応じた支援ができ、被災地の学校から評価された。
- (2) 保健室の復元という作業が、学校再開に向けての意欲をもたせることができた。
- (3) 被災により混乱する養護教諭に対し、冷静な判断で支援することができた。
- (4) 保健室に常駐することで児童生徒に安心感を与えることができた。また、被災の体験を自ら語る児童もおり、子どもの心に寄り添った支援をすることができた。
- (5) 早期の保健室の機能回復など、派遣された養護教諭は災害時の対応について学ぶことができた。